

○委員長（島 昌之）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

- (1) 平成28年（2016年）7月6日付け函館市学校教育審議会答申「第2グループ小学校の再編について」に対する対応と今後の学校再編について

○委員長（島 昌之）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件について、6月5日に開催した委員会において、審議会の答申に対する対応の経緯について分かりづらい部分があったことから、理事者から改めて説明を受けることとしていた。
- ・ 本日はその内容について改めて説明を受けるため、理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、入室を求める。

（教育委員会 入室）

○委員長（島 昌之）

- ・ 資料についての説明をお願いします。

○教育長（藤井 壽夫）

- ・ 説明に先立ち、私の方から一言お詫びさせていただく。
- ・ 去る6月5日に開催された総務常任委員会においては、私どもの不手際により説明が大変わかりづらく、本日改めての総務常任委員会委員協議会開催となったこと、委員の皆様においては、大変ご迷惑おかけしたことをまずもってお詫び申し上げます。申し訳ない。
- ・ この後、学校教育部長の方から改めて説明させていただく。よろしくをお願いします。

○教育委員会学校教育部長（堤 勝幸）

- ・ それでは私の方から5月29日に参考資料を配付させていただいていた、「平成28年（2016年）7月6日付け函館市学校教育審議会答申「第2グループ小学校の再編について」に対する対応と今後の学校再編について」説明をさせていただくが、ここで委員長にお願いがある。委員の皆様は資料の説明に当たり、今回の学校再編に係る経過について補足資料を配付させていただきたいと考えているが、よろしいか。

○委員長（島 昌之）

- ・ 委員の皆様、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは資料配付をお願いします。

（資料配付：再編留保の決定に至る経緯について）

○教育委員会学校教育部長（堤 勝幸）

- ・ 資料説明：平成28年（2016年）7月6日付け函館市学校教育審議会答申「第2グループ小学校の再編について」に対する対応と今後の学校再編について（令和6年5月29日付 教育委員会調

製)

- ・ 資料説明：再編留保の決定に至る経緯について（教育委員会調製）

○委員長（島 昌之）

- ・ お聞きのとおりである。ただいまの説明について、各委員から何か発言はあるか。

○出村 ゆかり委員

- ・ 私の方から何点か伺いたいのだが、今6校について御説明いただいたが、私が知っているのは、最近運動会があった千代田小学校で、全校児童数が55名というふうに聞いており、少なくびっくりした。他5校の現在の児童数が分かれば教えてほしい。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 今回の2グループ6校の児童数については、答申が示された平成28年は中部小学校が153人、北星小学校が110人、中島小学校が163人、八幡小学校が349人、万年橋学校が136人、千代田小学校が94人となっていた。今年度——令和6年度は、中部小学校が103人、北星小学校が73人、中島小学校が120人、八幡小学校が289人、万年橋小学校が118人、千代田小学校が50人となっているところである。

○出村 ゆかり委員

- ・ ちょっと格差が大きい。
- ・ 御説明されてたのであれば申し訳ないが、それを統合して、その3校ずつをどちらの学校に統合という話になるか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 八幡小学校、万年橋小学校、千代田小学校のグループについては、八幡小学校に統合するという答申であった。また、中部小学校、北星小学校、中島小学校のグループについては、統合校を中部小学校にするという答申であった。

○出村 ゆかり委員

- ・ 人数も場所的にも地理的にもというところで、受け入れる学校の選定については分かった。
- ・ 距離数などもいろいろ出てくると思うが、それぞれのグループで、通学距離が最大で何キロメートルくらいになってしまうのかを教えてください。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 統合した場合、八幡小学校グループで最も遠い距離となるのは、北浜町10番地の付近から通うお子さんで、距離で1.7キロメートルとなっている。また、中部小学校グループでは、千代台26番のあたりから通うお子さんが最も距離が遠くなり、通学距離は1.8キロメートルとなっている。

○出村 ゆかり委員

- ・ 低学年のお子さんだったらやはり負担というか、ちょっときついなという気はする。
- ・ 大森浜小学校ができたときにちょうど一般質問した。本当に小規模同士の小学校が統合して、多分一番遠いお子さんが1.8キロメートルくらいだったと思う。通学路もきちんと決まっておらず、非常に危険だということを当時指摘した覚えがあり、カードレールの設置だとかやってもらったのだが、大森浜小学校のときは特に問題なく統合が進んでいたのかなと思うが、比較してみてもどんな感じか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 統合に関わり、反対意見が全くなかったとは認識していないが、今回同様、保護者、それから地

域の町会、学校評議員、それから未就学の保護者等に対し、保護者等説明会を開催した際には、統合した場合の不安の質問の声もあったが、強い反対の声はなく、御理解を得られたところである。

○出村 ゆかり委員

- ・ 地域地域でいろいろと考えが変わってくるのかと思うが、やはり千代田小学校の50人というのがちょっと想像できず、親御さんもいろいろとここでは言えないような不安もおっしゃっていたが、アンケートをとられて、どこかで拝見したらやはり回答率が40%だったり60%だったり、それほど極端に少なくはないにしても、ほとんどがアンケート書くというぐらいであるから、反対意見の方々が積極的にアンケートを書いたのかなというふうに思ったが、いま一度そのアンケートの内容についてお話しいただきたい。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 答申で、統合校の位置とされている学校である八幡小学校、中部小学校では「学校再編をすすめることはやむを得ない」と回答した割合が最も高く、八幡小学校で47.3%。中部小学校では53.8%となった。
- ・ 一方で、統合した場合、閉校となる学校——万年橋小学校、千代田小学校、中島小学校では、「できるだけ学校再編は避けるべき」と回答した割合が最も高く、万年橋小学校で49.2%、千代田小学校で45.2%。中島小学校で56.5%。また閉校となる学校である北星小学校においては、「学校再編をすすめることはやむを得ない」と回答した割合が最も高く、45.9%となっていた。
- ・ 続いて、「学校再編をすすめるべき」または「学校再編はやむを得ない」理由についてもお尋ねしたが、いずれのグループについても、その理由として、「友達が増えたり、集団の中で社会性や協調性、たくましさ等が育まれるから」「人数が増えることで、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨する機会が多くなるから」「子どもたちの人間関係を考慮したクラス替えが可能となるから」などの割合が高い結果となった。
- ・ また、「できるだけ学校再編を避けるべき」を選んだ理由については、いずれのグループにおいても、「通学距離や通学時間が増えるから」「通学路の安全が心配であるから」「人数が少ない方が、子ども一人一人に教職員の目が行き届きやすいから」などの割合が高い結果となった。

○出村 ゆかり委員

- ・ 申し訳ない、ちょっとアンケートと前後してしまうが、その前段階に教育委員会として、この学校の児童にメリットデメリットではないが、どういった説明をされたのか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 保護者説明会においては、学校の小規模化が進むとこういうメリットとデメリットがあるということで御説明した。小規模化が進むことによるメリットとしては、子供一人一人に目が行き届きやすい、それから、子供同士の人間関係が深まりやすい、異学年の縦の交流が生まれやすい、ということをもメリットとして御説明した。
- ・ 一方、デメリットとしては、クラス替えができないことによる人間関係の固定化、人数が限られることにより多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会が減少してしまう、集団を前提とした行事やダイナミックな活動が難しくなる——例えば、音楽の合唱・合奏とか体育の球技などがそれに当たる。また、旅行的行事にかかる経費の負担増ということもデメリットとして御説明した。

○出村 ゆかり委員

- ・ 私の希望的な感想から申し上げますと、やはり人間関係の固定化というのは怖いという気はする。一番大事な——ずっと大事な時期ですけれども、小学校期間というのは成長過程で多くの人に触れ合うことでたくさんの社会勉強になると思う。学力もそうだが、中学校、高校それから社会に出ていく中で、いろんな方と出会うチャンスを逃してしまっているということ、親御さんが選んでしまっていることがちょっと心配だなというふうに思った。

○市戸 ゆたか委員

- ・ まず学校再編の考え方について、私も何回か本会議で質問させていただいたが、基本的には1973年の文部省の通達がある。無理な統廃合は行わないということが大前提ということで来てると思う。それで何回も皆さんから意見を聞いたり、丁寧にやっていただいているというふうに思う。
- ・ 私も大森浜小学校のときも何回か住民説明会とか保護者説明会に参加したり、今回の統合のところも何か所か行ったりしているが、大森浜小は全く反対者がいなかったわけではないと思う。保護者の中で、やはりもこれは説明されたんだから決まったものだという、そういう捉え方をしている人たちが多く、それで通学する距離も本当に大変で、西部地区の方から学校に来るのは大変だという意見がやはりいっぱいあった。だが今回は、きちんと保護者説明会の中で意見を聞いて、アンケートを取ったのは初めてだと思う。この保護者説明会で、来てない人の意見も聞いてほしいということでアンケートを取っているが、そのアンケートが今回の決定打になったというふうに思っている。
- ・ 前はアンケートを取ってない。統合した後にアンケートは取っているが、説明会の段階でアンケートは取ってないので、今回取ったその最大の理由はどうか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 第1回目の説明会を昨年11月から12月の間に開催した。その中で、複数の学校の保護者からこの場にいない人の声を聞いてほしい、この場にも声を出せない人の声を聞いてほしいという声が複数あったことから、アンケートを実施することに至った次第である。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 非常にそれが大事だなというふうに思う。本当にお母さん方、お父さん方は忙しいので、その説明会の時間帯に来れない人もいるということも考えると、アンケートをきちんと取っていくという——50%ぐらいしかアンケート返ってきていないが、その中でも行動したというあたりでは、非常に教育委員会は今回、丁寧にやっていただいたなというふうに私は評価したいと思う。
- ・ 今後のことだが、「留保」という考え方なのだが、留保ということはいつかまた再編に向けて動き始めるということだというふうに思うが、その考え方——子供の人数が一番だと思うが、どういうふうになった時点でもう一度再検討するのかというあたりがもし今の時点で分かっているのであればお知らせいただきたい。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 再編留保を決定した学校の今後の対応については、現時点において、いつまで再編を見合わせるのか明確な時期をお示しすることは難しいものと考えているが、教育委員会としては、引き続き、児童数の推移や学校規模、教育環境の変化を見据え、学校を通じて保護者等に教育環境の変化等について情報提供を行いながら、時期についても総合的に判断していきたいと考えている。

○市戸 ゆたか委員

- ・ その「総合的」がなかなか難しいなというふうにするが、今後、柏野小学校、港小学校、亀田小学校は現状維持ということだが、今再編で検討してきた八幡、万年橋、千代田小学校それから中部、北星、中島小学校、このグループについては、留保のときにこのグループのまま、また再検討するのか、それともそれも今後の総合的な考え方で考えていくのか。なぜ聞くかという、地図でちょっと見てみたら、八幡小学校に万年橋小学校と千代田小学校が統合するが、地図を見てみると、万年橋と八幡小学校に踏切がある。この踏切を渡って、八幡小学校に行くということで、ここが最大の不安だと。いくら陸橋があったとしても遠回りになる人もいると。それでこのグループのまま、また何年か後にこういう再編をしていくのか、そもそもこの踏切が——あること自体が悪いわけじゃなく、あることが分かっているながら、踏切を渡っての統合というあたりで、そこの考え方を少し整理していただけないかと。このままいくのであれば、私は本当にこういう統合は絶対あってはいけないというふうにするが、そこら辺の考え方はどうか。

○教育委員会学校教育部長（堤 勝幸）

- ・ 現時点においてこの再編計画に基づいて学校再編を進めていきたいというふうには考えているところである。ただ、学校規模であったり児童数の減少の状況であったり、地域それから保護者の状況等もその年その年によって様々であることから、現時点においては再編計画に基づいた、先ほど説明したグループでの再編計画を考えているところではあるが、今後様々な状況も勘案しながら、総合的に考えていきたいというふうになっているところである。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 総合的に考えてほしいと思う。やはり親として見たら、ただでさえ通学のときの安全は本当考えながら、本当に不安な中で通学している児童もいると思う。踏切を渡る、陸橋があるからいいだけではなく、ここも少し考えていただければなというふうにする。
- ・ それとお願いなのだが、こういう大事な再編問題については、今まで出村委員も私も総務常任委員歴が長いのだが、説明がない。そして保護者説明会がいつあるとかないとか、そういうことも説明がない。市民の方から説明会に対して質問が来たが、私たちは知らない。議員が知らないっていうふうになるわけである。そういった意味でその説明会に行く行かないは議員の考え方でいいのであって、きちんと情報提供をしてほしいし、アンケートについても、ただ資料を添付してアンケートしていた、見ていなかったのかという感じではなく、きちんとアンケートを取りましたということも含めて説明いただきたいというふうにする。委員長、そのことだけお願いして、質問を終わりたいと思う。

○工藤 篤委員

- ・ 留保の部分について私も質問しようと思ったが、わかった。
- ・ （２）の現状維持ということだが、一定程度の児童数ということで書いているが、一定程度でない児童数というのはどのくらいの人数をいうのか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 教育委員会としては、望ましい教育環境として、小学校ではクラス替えが可能となる12学級以上、中学校では9学級以上が望ましい学校規模と考えており、今回現状維持とする学校については、一定程度の人数を今後も見通せるということで現状維持とした。

○工藤 篤委員

- ・ 今後というところのぐらまでの見通しか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 柏野小学校については今年度1年生から6年生まで全て2学級ずつになっている。令和7年度も全部2学級の12学級ですが、令和8年度は、1年生の入学見込みが減少する見込みであり、もしかしたら11学級になるかもしれない。現状維持の港小学校については今年度1年生から6年生まで14学級ある。今後の推計でも令和12年までは13学級から14学級を維持できる見込みである。最後に亀田小学校であるが、今年度12学級編成されている。令和12年度まで12学級が編成される見込みである。

○工藤 篤委員

- ・ そうすると、12学級——小学校でいうと2学級ではなく途中で1学級の場合も出てくるといことで、その辺はまた臨機応変に対応していくということに理解した。
- ・ それと大森浜小学校の関係で、後でアンケート取ったということに、どういう形で取ったか教えていただきたい。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 教育委員会では、これまで学校が統合して——4月に開校するのだが、この半年後ぐらい、9月から10月の間に統合校の児童生徒・保護者を対象にアンケートを行っている。内容としては、設問がいくつかあり、統合前に期待していたこと、統合前に心配だったこと、またその心配だったことは解消されているか、統合して良かったこと、統合して困っていること、というようなアンケートを実施している。

○工藤 篤委員

- ・ これは大事なことだと思う。
- ・ こういう経過をこれから統合をしようとする方々に結果報告などを行っているか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ アンケートの結果については、まずアンケートを取った学校には結果をお伝えしており、ホームページにも公開している。また今回の2グループ6校の保護者説明会の中でも、統合した大森浜小学校で、どんな声がありましたか、アンケートの結果どうでしたかと質問はお受けしたので、説明したところである。

○工藤 篤委員

- ・ しつこいようだが、終わった後のアンケートでしなかった方がよかったとか、期待したものでなかったとか、負のイメージの部分というものはあったか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ やはり通学距離に関するところがあった。「学校まで遠い」「通学時間が長い」「荷物が重くて大変」「校区が広くて交通安全が不安である」等の記述があった。

○工藤 篤委員

- ・ その部分について、具体的な対策をしたことがあるか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 荷物が重いことについての対応を各学校でしている状況である。持ち帰るものと、それから置いていいものというのを各学校でそれぞれ決まりを作り、ロッカーに置いて帰ったりしながら荷物の軽減を図っているところである。

○工藤 篤委員

- ・ 通学距離、それを短くするというのは具体的にできるわけではない。その間にまた交通事故を一番心配するところはあるので、そこに対するケアとしてよく緑のお姉さんとか、そういうのはありますけど、そういうことの対策を考えた実績というものはあるのか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 通学路、特に登校時・下校時の安全については、各学校で学校運営協議会などで話題に上げていただき、地域と連携しながら、登下校の見守りの協力を町会にさせていただいたりしているほか、青柳小学校・青柳中学校・弥生小学校・あさひ小学校で構成している青柳ネットにおいては、毎月1日と15日を「青柳ネット安全の日」といたしまして、普段から青色パトロールの安全カーを走らせているが、それ以外にも保護者に安心メールを流し、今日は青柳ネット安全の日なので玄関先まで出ていただいたり、家の前まで出ていただいて子供たちの登下校の様子を見守ってください、というような呼びかけをしているところもある。

○工藤 篤委員

- ・ 実は私、前職でこの統合問題で、大変いろんなことがあり、大変な目に遭ったというのはちょっと失礼なのだが、結果的にやはり話し合いを粘り強くやって皆さんの——子供たちなり父母の皆さんの心配事なり、そういうものに対しては答えていく。最後私が責任持ちますからという形で収めた経過がある。
- ・ すごく嬉しかったのは、統合した後にいわゆるさっき言った負のイメージで私に来た方は1人もいなくて、統合してよかったというふうに言われたのが印象に残っている。特に未就学のお父さんお母さん方が非常にやはりそういう取組を見ているものであるから。ぜひそういう意味では丁寧に、若干時間がかかっても理解と納得を得られるような対応をしてもらいたいということをお願いしておきたい。

○福島 恭二委員

- ・ 最初に聞けばよかったのだが、再編を留保するという決めたということで報告があったが、この留保したっていう経過からすると、やはり親御さん方が遠いだとか、危険だとか、様々な事で反対の声もあったということも、留保した理由の一つになっている。やはり教育委員会としては、今も質問あったと思うが、望ましい学校規模を確保したいということが主であり、それがゆえに簡単に言うと、児童が少ない学校は統合して一つにしたいという——効率化を図りたいというのが主なんだろうと思うが。そのことは分かるが、望ましい規模といっても、今40人から35人になったか。そういうことで35人にしたいということが一理になっているかと思うが、留保した経過からするとおそらくこの留保した様々な問題含めて、解決するという見通しが無い限りは再編は無理ではないのかなという感じがする。
- ・ そういう環境を変えるという、変わっていくんだという見通しがあるのかどうかというのか。あるいはまたそれに対して先ほども質問が出ていたが、安全対策という点から考えると、そういった安全

対策要員みたいなものを配置しても何とかしたいという思いなのかどうか、その辺の考え方がこれからの問題なのかもわからないが、あるのかどうかお答えいただきたい。

- ・ 併せて、3校を1校にするということで、例えば八幡小の場合は3校を1校にするということであるが、このことは言ってみればまるごと決められた学校に沿って統合するというところで、親御さんたちや子どもたちの希望を聞いて選べるものなのかどうかお答えいただきたい。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 今回再編を留保するに至った要因の中に保護者、地域の方々からの通学に対する不安を払拭することが難しかったということがあった。通学は1年生から6年生までの6年間、毎日毎日通る大事な道であるため、この安全の確保、それから通学に対する理解を保護者から得るということはとても大事なことだというふうに考えており、教育委員会では、通学路の安全に関わり、道路管理者・警察・学校関係者で組織する函館市通学路安全対策会議において、合同点検を行いながら、対策の内容を検討してまいりたいというふうに考えている。引き続き、もし次に保護者説明会等が開催する運びになったときには、今のお話しした通学安全対策会議において、通学路の安全について十分検討しながら、保護者の理解を得て進めてまいりたいというふうに考えている。
- ・ 2点目の、統合する場合子供が学校を選べるのかというお尋ねであるが、今回の八幡小学校、万年橋小学校、千代田小学校の3校については、万年橋小学校と千代田小学校の子供が八幡小学校の方に統合でいくというふうに答申の方が示されているが、通学の負担を軽減するために、一部の地域を違う学校に変更するような答申を出していた。
- ・ 具体的に言うと、千代田学校に通う子供のうち、八幡小学校に通うより柏野小学校に通う方が近い子供がいる。そのような子供は柏野小学校も選択できるように答申が示されており、また中島小学校の子供のうち、宮前町や梁川町に住んでる子の一部が少し遠くなるため、学校を選べるというふうに答申で示されているところである。その地域以外は基本的に統合校に行くという答申である。

○福島 恭二委員

- ・ 分かったが、特に安全面を考えると、この踏切なんかはやはり一番問題だと思う。これは、未来永劫廃線にならない限りはそこは従来通りの関係になると思うし、道路の問題一つとっても、子供がこれから減っても増えることはないんだと思ったりもする。とすればなかなか現状のままで、特にその間が留保するという一つの理由になったとすれば、それがやはり大きく改良されなければなかなか了解されないことになってくるのではないかと思う。今説明あったように、答申の中で、個々の多少の選択肢はあると。それをもっと幅を広げるようなことで次回からは考えられないものなのかどうか。今の話からずっと限定的な部分では他の選択肢があるような説明でしたけど。改めて全校に対してそういう選択肢を与えるということは、考えてはいないのか。その辺を説明してほしい。

○教育委員会学校教育部長（堤 勝幸）

- ・ やはり今回、再編留保という形になったところの一番大きなところは、先ほど議員の方からもお話があったように、やはり通学路への負担——時間とそれから距離が長くなるということの負担。ここが保護者の負担——当然、保護者の負担や不安があるということは子供たちの不安ということでもあるので、そういったところから再編留保というような形になったところである。この安全問題について先ほど課長の方からも説明があったように、やはり各部局とも連携を図りながら、可能な限り保護

者の負担軽減という形で検討していく必要があるとは思っており、また地域の協力もしっかりと得られるような形で十分に地域また保護者の方々に説明をこれからも図っていく必要があるというふうに思っているところである。

- ・ 校区を少し広げるというところについては、現時点においては、校区の一部を変更したとしてもなかなか一定程度の児童数を確保するといったような形での結果にはならないというところもあるので、現段階としては先ほど課長の方から説明があったように、学校により指定変更を認めているところがあるので、その部分だけ認めるという形で、現時点においては考えているところである。

○福島 恭二委員

- ・ できれば、改めて再編留保して検討し直すということであるから、従来のような一辺倒ではなく、こうして我々の意見も聞きながら、改めて父兄の意見も聞きながら、距離の問題・安全面の問題を改めて考え直すというか、再検討してほしいなというふうに思う。
- ・ 何年後になるのかわからないが、今回のように教育長も変わり学校教育部長も変わり、改めて再編を取り組むということになったときに、この体制のままで仮に行くとしても、父兄の方が、今教育委員会が新しい幹部に変わったんだから、今まで以上の意見を拝聴しながら生かしてくれることになるのではないかと大いに期待しているのではと思う。私は、それだけに今新たな藤井教育長のもと、幹部の皆さんが大変だと思うから、そういったことを十分配慮しながら、再検討に着手してほしいなということで要望しておきたいと思うので、よろしく願います。

○茂木 修委員

- ・ 再編に対する今後の対応についてはよく理解した。
- ・ 一点だけちょっと確認で、私の認識不足で大変申し訳ないが、万年橋・千代田・北星・中島小学校については、この校舎の耐震化はもうすでに終わってる学校か。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こずえ）

- ・ 終了している。

○吉田 崇仁委員

- ・ 先ほど工藤委員からもお話があったように、私も戸井学園ができるまで大変な苦勞をした1人である。先ほど市戸委員からもお話があったように、保護者はなんといっても安心安全の面が大事だった。
- ・ 戸井学園ができる前に再編の話が出たのが13年から14年ぐらい経つが、当時アンケートも取った。実はうちの方に国道1本しか道路がないものだから、それが毎年秋の台風シーズンになると、必ず通行止めになる。不便なのである。それで、戸井を一つにしようという——4校を1校にしようというときに、これがネックになり駄目かなと思ったら、開発の予算要望の中で、防波堤——日本一高い防波堤を作るということで、作ったのである。今もある。それから、台風でも波が道路に上がってこなくなり、それでようやく保護者の皆さんから、これなら安心だ、これなら統合してもよいというふうになったということで話がトントン拍子に決まった経緯がある。
- ・ ですから先ほどお話しがあったように、やはり子供の安全・安心、保護者にとって安心な面というのはいかに大事かと感じ、そういったことを参考にしながら学校再編を目指していただきたいと思う。おそらく5年10年かかると思う。簡単でないと思う。先ほど福島委員からもお話があったように、やはり長く、これからも教育長が変わっても、子供のためになるのであれば、根気よく再編を目指して

いただきたいと思い、私のお願いで終わる。

○高橋 千晶委員

- ・ 皆さんの質疑で、この経緯については大変理解をした。保護者からの求め、そして私も議会の方で保護者や地域の声をぜひもっともっと聞いてほしいということ要望したので、それが叶えられ今回の決断に反映されたということを本当に感謝申し上げる。
- ・ 交通の問題——通学路の問題についてはやはり皆さん心配されていることもあるし、先ほどの防波堤の話で解決できたらそれがきっかけで皆さん納得して進んだということもあると思うので、通学路のいろいろな信号機とか、いろいろな橋とか、いろいろと今回懸念されること——保護者の方から具体的にここの箇所って出たと思う。前回の再編のときにもきっと同じような場所の話が出たと思うので、心配されているところの場所はだいたい確定してと思う。そこが1日も早く解決でき皆さんに良いお知らせができるようになるというふうに思うが、説明会のときでもお話しされていた通り、再編するというふうに、ある程度の方向性が決まらなないと工事ができないとか、信号機がつかないとか、警察の方のいろいろなルールもあるみたいなので、その辺りは粘り強く求めていただければというふうに思う。
- ・ 私の方からは1点。その安全の部分ともう一つ、統合してから子供が増える。そのときの心配として、大森浜や巳の事後アンケートでも明らかになったように学力の部分の心配だとか、人間関係、友達関係の大人数になったことによる心配がどうすれば解消できるかなというふうに考えていた。先生もやはり人数が増えれば一人一人になかなか目が行き届かなくなったりして、小さい学校は、きっと今千代田は各学年10人弱ずつだと思うが、きっと一人一人にすごく丁寧な対応していただいて、子供たちも保護者の方もとても満足していると思う。それが人数が増えるとやっぱり自分の子を見てもらえないんじゃないかというような心配から、アンケートの結果にもなっていると思うので、道とか国の制度でこういう統廃合を行ったときに、何らかの経過措置としての教職員の加配とかそういう制度はあるのか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 学校が統合した際の加配はあるが、何年かというのはちょっと今この場では即答できない。申し訳ない。

○高橋 千晶委員

- ・ 各校1人ずつの加配というふうになるか。

○教育委員会教育政策推進室学校再編・地域連携課長（小棚木 こそえ）

- ・ 加配1人である。ただ、何年かがちょっとわからないのでお調べして後ほど御回答する。

○高橋 千晶委員

- ・ 統合によるいろいろな雑務というか、いろいろな手続きとかそういう関係で1人つけるということだと思うが、子供たちに寄り添い1人1人を見てあげるといふことの観点からいけば、せめて学年に1人ずつぐらいプラスアルファで先生がつくと、きっと子供たちも保護者の方も安心できるんじゃないかなというふうに思う。1クラスに1人というのは本当に難しい。今人手不足といわれているときだから、なかなか難しいかもしれないが、ぜひ市の予算で支援員の先生を何年間かの経過措置という感じで手立てしてもらえとか、こういうふうにしますよという手立てを取れば、きっと親御さんも

うなずいてくれるような材料になるんじゃないかなと思うので、今後の再編のときにはぜひ検討していただきたいというふうに思う。

○委員長（島 昌之）

- ・ ほかに発言はないか。
- ・ 発言を終結する。
- ・ 理事者においては、本日の質問の趣旨を踏まえ、今後の対応を進めてください。
- ・ ここで理事者は退出願う。

（教育委員会 退出）

- ・ 議題終結宣告

2 その他

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言あるか。

○高橋 千晶委員

- ・ 先日より皆さんにお話していた、学校を視察というか、見学させてもらったかどうかということについて、テーマがあればということで前はそこで終わったと思うが、いろいろ具体的なテーマを考えてみたがちょっと今のところ私の方では整理がつかず、この件に関してはもう少し時間をいただきたいなど。改めて皆さんに提案させていただきたいというふうに思う。よろしくお願ひしたい。
- ・ それとは別に、函館市内に北海道教育大学附属小中学校があり、先駆的な教育ということで、他の市立の小学校や中学校のお手本となるようなとか、そういう授業作りをして、年に1回研究会ということで公開をしているが、その研究会が、平日であるが今年7月24日に開催される。
- ・ この研究会を見学できないかどうかを事務局を通じて問い合わせしてみたところ、見学できるというふうにお返事をいただいたので、今各学校で行われているタブレットを使ったICT教育だとか、今の授業が見学できると思うので、ぜひ皆さん、全員一緒についていくことではないが御都合のよろしい方、ぜひ見学してはどうかなというふうに思う。
- ・ 後ほど御案内をお配りさせていただくので、御都合のよろしい方は一緒に見学できればと思ってお知らせさせていただく。

○委員長（島 昌之）

- ・ ほかに発言はないか
- ・ 散会宣告

午前11時03分散会